

大会注意事項

開会式はおこないません。

大会開催中の問い合わせ先（7時～16時まで）

大会事務局：TEL 090-9977-9275(深井)

- ・第1試合のチームは雨が降ってても球場に出向き確認してください。
- ・会場である大井スポーツセンターに絶対に問い合わせをしないでください。
- ・1日でも雨が降りますと日程が変更されます。事務局と連絡を密にお願いいたします。

大会当日注意事項

- ・大会当日は試合開始30分前に選手が揃ってること。
- ・勝っても負けても試合後は必ず本部に立ち寄ること。
- ・事故等が起きた場合は必ず本部に報告すること。

厳重注意

- ・各チームで出したゴミは責任をもって持ち帰るください。
- ・試合会場および周辺は禁煙とします。タバコは喫煙場所をお願いいたします。

大会連絡責任者の登録

- ・チーム名・連絡責任者名・電話番号を記載の上、下記アドレスにメールを送ってください。

syutoken2019@gmail.com

大会の連絡事項はPCより配信しますので必ず上記アドレスからメールが届くようにしてください。

学童軟式野球大会注意事項

【競技運営に関する注意事項】

- 1.大会でベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督30番、コーチ29番・28番及び選手25名以内（主将10番）とチーム責任者（引率責任者）、マネージャー、スコアラー、トレーナー（有資格者）の各1名とする。（監督、コーチ以外はユニフォームを着用しないこと）
- 2.監督・主将会議で説明又は決められた事項は、チーム全員に必ず徹底させること。
- 3.ベンチは組合せ番号の若い方を1塁側とし、攻守はジャンケンとする。
- 4.試合を行うチームは、試合開始予定時刻30分前に全員が揃っていること。
- 5.球場内では、トスバッティングのみとし、ハーフバッティング・フリーバッティングは禁止する。
なお、ノックは、サイドノックのみとする。
- 6.第2試合以降のバッテリーのブルペン使用は、4回終了時又は1時間00分を経過したのち（低学年は3回終了又は45分を経過したのち）先発バッテリーに限り使用することができる。
- 7.ベンチ内での電子機器（携帯電話・パソコン等）及び携帯マイクの使用を禁止する。メガホンは1個に限り使用することができる。
- 8.試合開始予定時刻になっても球場に来ないチームは原則として棄権とみなす。開始時及び終了時に9名以上いない場合も同様の処置をとる。
- 9.大会において守備の時間が長い場合には健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けることとする（ロスタイムとして処理する）。
- 10.試合中及び球場への往復の事故については、主催者は一切責任を持ちませんのでご了承のうえ、参加してください。

【用具、装具等について】

- 1.金属・ハイコンバット（複合）は都連盟公認のマーク（J.S.B.B.）のついたものを使用すること。
- 2.装具の使用は、公認野球規則で規定されているもののほか、次の定めるものを装着または使用しなければならない。
捕手は、都連盟公認（J.S.B.B.）のマスク（スロートガード付）プロテクター、レガーズ、SGマークのついた捕手用ヘルメット及びファルカップを装着しなければならない。
シートノック（時間は5分間）がある場合も同様とする。ノッカーも必ず選手と同様の服装（スパイクを含む）を必ず着用すること。また、補助員もヘルメットを着帽すること。なお、補助員は大人でもよいが、28,29,30番の背番号をつけたユニフォーム着用者とする。

打者、次打者、走者、ベースコーチはSGマークの入った都連盟公認（J.S.B.B.）の両側にイヤーフラップのついたヘルメットを着帽しなければならない。
- 3.ユニフォーム、スパイク等、次に定めるものを着用しなければならない。
同一チームの監督、コーチ、選手は、全員同色、同形、同意匠のユニフォームでなければならない。

(ロングパンツ不可とします。)

金属製スパイクの使用を禁止する。運動靴でもよい。

アンダーシャツは全員同色のものでなければならない。

帽子は全員同色、同形、同意匠のもの。また、ストッキングは全員同色ものでなければならない。

【大会特別規則】

1. 全ての大会は7回戦、又は1時間30分(低学年は5回戦、又は70分)で新しいインニングに入らない。
なお、5回(低学年は3回)を終了するか、又は5回(低学年は3回)終了以前でも規定時間に達したならばゲームは成立する。
2. 得点差によるコールドゲームは、全ての試合に適用する。高学年は4回10点差、5回以降7点差。低学年は3回10点差、4回以降7点差
3. 暗黒降雨などで規定の回数及び時間に進行していない場合、すなわちノーゲームになるときであっても特別継続試合として行う。
4. 7回を完了(低学年は5回を完了)又は制限時間を過ぎて同点の場合は、延長戦は行わず、タイブレーク方式(無死満塁で継続打順)で行う。タイブレーク方式は最大1インニングまでとする。なお、同点の場合は監督同士のジャンケンで勝敗を決定する。決勝戦も同様とする。
5. 抗議のできる者は、監督か当該プレーヤーとする。
6. 監督に限り、グラウンドに出て指示をすることができる。小走りでスピーディーに選手のもとに行き、帰ること。監督はタイムを要求するとき以外は、みだりにベンチを出てはならない。
7. 学童部の投手は、変化球を投げることを禁止する。関節の障害防止のため、また、骨の未熟な学童部の投手に対して変化球を投げることを禁じ、変化球を投げた場合は次のペナルティを課すこととする。(公益財団法人全日本軟式野球連盟が発行する2018年競技者必携の「競技に関する連盟特別規則 P26 7...変化球に関する事項」より抜粋。)
変化球に対して“ボール”を宣告する。
投げないように監督及び投手に厳重に注意する。注意したにもかかわらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げたときはその投手は交代させる。
変化球が投げられた時については、2018年版競技者必携のP26(3)を適用する。
8. 投手の投球制限については、1日7インニング(低学年は1日5インニング)までとし、タイブレーク方式に限り1インニングまで投球できる。
投球インニングに端数が生じたときは、3分の1回(アウト1つ)未満の場合であっても、1インニング投球したものとして数える。
9. 時間制限の解釈について(東京都大会に適用)
試合時間は大会本部、又は当該担当審判員が管理し、試合開始時刻を両チームに通告する。
試合時間に達した時は、審判員はそのことを両チームに通告する。

【ケース1】

チーム	1	2	3	4	5	6	7	計
A	0	0	2	0	3	1		6
B	0	0	0	0	2			2

- ・ Aがリードの6回表に1時間30分が経過した場合
6回を7回と置き換えて、6回裏の攻撃まで行う。

【ケース2】

チーム	1	2	3	4	5	6	7	計
A	0	0	2	0	0	1		3
B	0	0	2	0	2			4

・ B がリードの 6 回裏の B 攻撃中 1 時間 30 分が経過した場合

1 時間 30 分を超えた時点で試合終了となる。審判員はその時の打者の打撃中にその旨を両チームに通告し、この最後の打者の記録まで有効とする。

10. 監督が投手の所へ行く回数の制限...監督が 1 試合に投手のところに行ける回数は、7 イニングにおいては 3 回以内とする。なお、タイブレーク方式では 1 回とする。
11. 守備側のタイムの回数制限...捕手または内野手が 1 試合に投手の所へ行ける回数は、3 回以内とする。なお、タイブレーク方式となった場合は、1 回行くことができる。
12. 攻撃側のタイムの回数制限... 1 試合に 3 回以内とする。なお、タイブレーク方式となった場合は、1 回とする。
13. タイムは 1 分以内を限度とする。

【試合のスピード化、その他に関する注意事項】

1. 学童の大会においては塁のバッグを固定しない場合がある。走者の衝撃で塁のバッグが移動したときは、2018 年野球規則 5.09 (b) (4) 【規則説明 A】、【規則説明 B】を適用する。
2. 打者は速やかにバッタースボックスに入ること。なお、サインはバッタースボックス内で見ること。
3. 攻守交代時に最後のボール保持者は必ず投手板にボールを置いてベンチに戻ることに。
4. 打者が 2 塁打を打ち、打撃用手袋から走塁用手袋に変える為にタイムをかける行為を禁止する。
5. 打者が頭部にヒットバイピッチを受けた時には、球審は臨時代走の処置を行う。
6. 前進守備時の野手の位置については、故意に打者を惑わすことと野手の安全を考慮して塁間の半分を目安とする。

以上

ゲーム規定

【高学年】

試合回数 7 回

- 時間制：全試合 90 分（決勝含む）
- コート 4 回 10 点・5 回 7 点
- 同点時：時間切れ終了で同点の場合 特別延長戦へ
7 回終わって同点の場合 特別延長戦へ

試合成立 5 回完了時とします

【低学年】

試合回数 5 回

- 時間制：全試合 70 分（決勝含む）
- コート 3 回 10 点・4 回 7 点
- 同点時：時間切れ終了で同点の場合 特別延長戦へ
5 回終わって同点の場合 特別延長戦へ

試合成立 3 回完了時とします

【共通】

- 特別延長継続打順・無死満塁・1 回のみ
- 抽選： 特別延長で決着がつかなかった場合、監督同士でじゃんけん（1 発勝負）
負けた監督は選手に謝ってください。

ピッチャー関連

- 投球制限：『1 人 1 日 7 イニング（低学年は 5 イニング）まで【ただし特別延長は制限・カウント対象外】』とします
1 試合終了時点で、各投手の投球回数の端数（1/3・2/3）は切り上げて整数値にします。
- 投手に関わるシート変更：たとえ同一イニング中でも無制限とします。（打者 1 人に投げる義務はある）
- 『監督が同一投手のもとへ同一イニングに 2 度行けば、投手交代（降板）しなければならない』：
このルールが適用されて降板する投手に限り、そのイニング中の再登板は不可能です。（全軟連規定どおり）
- 投手が手に息を吹きかけること、カイロを所持すること、ボールをユニフォームで拭くことを認めます。
- 投手に限り以下は禁止（外から見えるもの）：手袋・リストバンド・ミサンガ・サングラス・
ネックウォーマー・サポーター・テーピング・絆創膏 等（投手以外は制限ありません）

作戦タイム関連

- 作戦タイムの制限は簡略化し、各チーム 1 試合につき『守備中・攻撃中 各 3 度まで（特別延長戦は 1 イニングに各 1 回まで）』とします。選手のみでも監督が加わっても一律にカウントします。
捕手と投手 2 人きりでもカウントします。タイムのカウント判断と管理は、グラウンド上の球審がおこないます。
- 監督が投手のもとへ行く場合は、駆け足で投手板付近に集まってください。

監督コーチ関連

- 審判への抗議・確認と選手の交代通告は、監督のみに限定します。
ただし、ボール・ストライクに関する裁定（変化球判断を含む）への抗議は一切不可です。
- ベースコーチは登録選手のみとします。ベースコーチ不在の状態でも試合はそのまま進行させます。

グラウンドルール

試合開始まえに審判員に確認してください。

試合結果報告

試合終了後は勝利チームが必ず試合結果を本部に報告してください。

その他

背番号は 0 ~ 99 番（30・29・28 は除く）ですが主将は「10」番とします。（重複は不可）
ランナーコーチは登録選手のみとします。（監督コーチは不可）
記載されていない事項に関してはその都度大会役員に確認してください。

上記以外は 2018 公認野球規則及び別に定める特別規則を適用します。